

事業実施報告書

法人名	特定非営利活動法人みんなの学び舎 るびなす
活動名	不登校児童生徒のための自立支援事業
助成事業の種類	SDGs推進活動助成
	人間分野
事業の目的	
<p>少子・高齢化、人間関係の希薄化等が進む変化の激しい現代社会において、児童生徒のいじめ、不登校や引きこもりの増加が重大な喫緊課題となっている。また一方で、核家族化や都市への人口流出等により過疎化も進む中、高齢者の孤立化等も大きな社会課題となっている。本事業は、秩父地区の小中学校に在籍する不登校児童生徒や地域在住の高齢者が学習や体験活動、交流を通して自己有用感や自信を高め、生きがいを感じながら社会とつながり自立するための支援を行うことで、教育及び福祉の向上に寄与することを目的とする。この目的を達成するために、元教員やPTA関係者、会社代表等で構成した組織により、事業の運営や実際の支援活動を分担・協力して行う。また、事業の実施にあたっては、秩父地区の小中学校や教育委員会、関係諸団体との連携を行う。</p>	
事業で取り組んだ地域や社会の課題	
<p>秩父地区の小中学校に在籍する不登校児童生徒は、学校に登校しないために本来受けられる学習指導や体験活動等を経験する機会や人間関係を構築する場、自らを成長させる居場所を失っている。そんな不登校児童生徒が、本事業を実施する施設である「みんなの学び舎 るびなす」に来所することで、経験豊富な元教員等による丁寧でわかりやすい学習支援や自然環境を活かした様々な体験活動等の支援を受けることができる。来所する不登校児童生徒本人はもとより、その保護者への相談活動も進め、一人一人の個性や思いを尊重しながらその子に寄り添ったきめ細かい支援を行うことで、児童生徒が自己有用感や自信を高め、自立する力を高めることに結びつくとともに、保護者の子育て支援にもつながる。また、児童生徒相互やスタッフ、地域在住の高齢者との有意義な交流を経験することにより、自分の居場所を見つけ、心の安定と成長を図ることができる。来所する高齢者にとっても、子どもたちやスタッフ、高齢者同士の触れ合いにより、生活にメリハリと活力を持たせることができる。</p>	
取り組んだ事業の具体的な内容・実施結果	
<p>令和7年6月2日にオープン後、入所を希望する不登校児童生徒については、親子での面談・見学を通して、安心して入所できるように配慮した。通所児童生徒に対して学習支援や体験活動支援、遊び等を通じたコミュニケーション活動支援等を継続的に行った。学習支援では、各児童生徒の学習進度、興味関心等を把握しながら、本人の意思を大事にするとともに、スタッフからの提案も投げかけながら、学習時間の確保と学習習慣の形成に努めた。体験活動では、草花や野菜の植え付け・水やり・収穫・種取り、稲刈り、果物の収穫の体験等をしたり、寄贈していただいた木工パズルやカラー粘土で作品を作ったり、和太鼓やギター等の体験をしたりした。体力作りも考え、ミニ卓球や屋外でのボール運動、近くの野山や川への散策等もした。生涯学習支援事業として、七夕コンサート、炊き出し体験、かんなくずアートづくり体験、ミニ門松づくり体験を実施した。また、保護者との面談・相談活動、在籍学校の職員との情報交換も計画的に行い、効果的な支援に繋がった。2月28日現在で入所児童生徒は17人(小12・中5)、6月20日～2月28日の開所日数は161日、施設利用延べ人数は 623人。従事者数は、在籍者31人、延べ従事者数は303人。</p>	
事業実施により達成した成果の具体的な内容	
<p>不登校児童生徒及びその家族にとって、相談をする場所とともに、学習支援や体験活動等を通して子どもが生き生きと過ごし、自立に向けた成長ができる居場所が大切である。入所した児童生徒17名であるが、入所にはなっていないが相談に訪れた家庭は7軒あり、相談と情報提供をした。通所児童生徒への関わりにおいては、入所面談カードや個票、学習記録表、家庭とのやりとりを使う連絡帳等を作成・活用し、本人や保護者への丁寧で適切な対応、スタッフ同士の確実な引き継ぎによる効果的な対応に努めた。実際の学習支援では、児童生徒に個別に支援に当たり、適切な声かけと励ましを心がけ、安心してやる気高めながら学習を進められるようにし、概ね学習意欲の向上が見られている。保護者面談や在籍小中学校の職員との情報交換をその後の支援活動に効果的に繋げることもできている。きめ細かな取組により、子どもや保護者からの信頼が深まり、子どもたちの自信とやる気が高まった。その結果、学校への出席が増え、授業や学校の行事等の活動に参加できるようになってきた児童生徒もいる。また、はじめはなんとなく過ごしていた児童生徒も、学習や様々な活動を自主的に進めようとしたり、友だちと一緒に折り合いをつけながら活動したりすることが増えてきた。</p>	

費用面での工夫
NPO法人として活動を進めるに当たって、クラウドファンディングや個人・企業からの寄付金を募り、資金としている。また、在籍するスタッフも、会員としての入会費や年会費を会に支払い、活動費用の一部としている。令和7年の6月にオープンし、事業を開始したNPO法人なので、準備のために様々な用具・用品を整える必要があった。秩父郡市の教育委員会にも支援依頼をし、使用しなくなった学校備品等をいただいたりもした。スタッフ個人やその知人から使用済み教科書や紙類等の学習用具や遊び・体験の道具もいただいて活用するようにした。今回埼玉県NPO活動促進助成でいただいた助成金は、事業になくはならない備品や学習・活動のための物品を購入するために大変に大きな財源となった。無駄に支出することのないように、購入に当たっては当法人の代表理事をはじめ、スタッフで協議のうえ、有効活用できるものに絞って購入するようにした。物品は購入をするばかりではなく、手作りのものを生かすことにも努めた。スタッフ自身のマンパワーを生かしつつ、併せて地域の方の物的・人的支援もいただき、感謝しながら有効に活用している。
地域社会への還元
子どもたちは、その存在そのものがかけがえのないものであり、社会にとっても未来を担う大切な宝である。そんな子どもたちが、学校に行けなかったり、学校の教育活動に参加できなかったりして、十分な学力や体力、経験を積むことができずに、健全な育成につながらない生活を送ることは、社会にとっても将来的に大きな損失につながる。当施設に通所してくる子どもたちは、個人差はあるが、少しずつ、あるいは著しく成長し、自らの自立に向けた歩みを進めている。当施設の第一義的な目的に沿った活動が、地域社会への還元につながっていると確信している。また、勤務しているスタッフは、多くが元教員であり、これまでの豊富な経験を生かした支援活動により、不登校に悩む子どもや保護者にとって、確実な支えとなっている。それと同時に、スタッフにとっても、子どもたちや保護者、地域の方々、スタッフ同士ふれあいながら活動にあたることで、自らの元気とやりがいを得る生涯学習的な場ともなっている。秩父地域には、まだまだ、「るびなす」のような不登校児童生徒の支援施設が少なく、事業を発展的に継続していくことで、さらに社会的価値を高めていきたい。
今後どのように事業を継続し発展させるか
事業を継続的に行うための課題は、第一に施設・設備、必要備品等の充実と運営資金の安定的な調達を図ること、第二に経験豊富なスタッフの多くが高齢であるため事業の継続性に不安があること、第三にスタッフの効果的な役割分担と協力をしながら活動を進めることや関係諸団体等との連携を適切に図ることである。初年度、課題解決に向けて次の3つに留意して進めてきた。①本事業についてのPR活動や交渉、寄付金・助成金を効果的に活用するとともに、将来的には自立した運営を目指す。②有能で若いスタッフを確保し、ベテランと若手の良さを融合しながら事業を長期にわたって引き継いでいく。③本事業の活動状況等をホームページやSNSを通じて情報発信するとともに、実績を積みつつ、事業の見直し・改善を図り、関係諸団体等と活動内容を互いに補完しながら事業の継続・発展に取り組む。初年度の取組を振り返り、スタッフで協議してさらに改善を図っていきたい。

事業収支計算書

法人名 特定非営利活動法人みんなの学び舎 るびなす

1 収入の部

(単位:円)

項目	予算額 A	決算額 B	増減額 C=B-A	備考
助成金	500,000	500,000	0	
自己資金	146,000	116,029	△ 29,971	
活動実施による収入等	225,000	86,100	△ 138,900	
その他	0	0	0	
収入の部 合計	871,000	702,129	△ 168,871	

2 支出の部

(単位:円)

項目	予算額 A	決算額 B	増減額 C=B-A	備考
会場費		0	0	
通信運搬費		0	0	
旅費交通費	180,000	131,300	△ 48,700	
消耗品費	340,000	279,189	△ 60,811	
備品費	130,000	133,800	3,800	
委託費		0	0	
謝金	25,000	10,000	△ 15,000	
人件費	196,000	0	△ 196,000	
その他		147,840	147,840	
支出の部 合計	871,000	702,129	△ 168,871	